

## 17 . 内視鏡の消毒・洗浄に関する実践報告

獨協医科大学病院 看護部副部長 石川美知子

医療が高度化し、内視鏡で患者さんへの負担が少ない検査が多くなり、手術も大きく切開をせずに、内視鏡で行うことが多くなってきた。これらの内視鏡での検査・治療は、今後多くなって来ることが予測される。

当院では、内視鏡室で、80本の内視鏡を保管し、検査が行われ、消毒・管理も行われている。しかし、各診療科でも内視鏡を保管しており、必要な時に各診療科の責任で、消毒・洗浄・滅菌し使用している。

院内の安全対策課・感染対策課では、それらの内視鏡の管理を大きな問題と捕らえ、看護部、副部長であり、中央材料部も担当している私に改善を申し出てきた。そこで、院内に内視鏡がどの程度あるのか、どの様な管理がなされているのかを調査し、患者さんに安全な内視鏡手術や検査が提供出来るようにするにはどうしたらいいのかを検討し、実施したので報告する。

### I . 問題となる事

1. 内視鏡を使用する頻度の多い耳鼻科で、感染の意識が低い
2. 消毒剤が人体に悪影響を及ぼす危険性がある
3. 中央材料室で消毒するためには、機器を置く場所が必要である

### II . 問題点の解決策

#### 1 . に対して

Drは、口や鼻は、純滅菌で良いと考えて現在の消毒方法で良いとしている事に関しては、感染委員との話し合いを重ね、中央材料部での消毒が必要であるとした。しかし耳鼻科で所有している内視鏡が少ないため、内視鏡の必要本数や消毒の方法を検討するという課題が残り、50回の内視鏡がどの様に使われているのかを調査し、必要な内視鏡の本数を決めていくこととした。

#### 2 . に対して

グルタルアルデヒドは、空気より重いため中央材料室のリニューアル時、換気口を部屋の下に設置するよう施設課に働きかけ実施可能となる。また現在、内視鏡を中央材料室以外で消毒・洗浄している部署は、消毒の方法を検討・指導していく。

#### 3 . に対して

内視鏡を何本洗浄・消毒するのかを調査し、必要な本数を購入する。洗浄機は、中央材料室のリニューアル時、朝50本の内視鏡が部署に提供出来るよう5台の洗浄機を購入し、スペースを確保することとした。

### III . 結果・評価

内視鏡の洗浄・消毒は、感染学会などでも話題になっている。各病院でも耳鼻科で使用する内視鏡の本数が多いため中央での洗浄・消毒を行えない施設が多い。当院でも多くの問題があり、話し合いを中心に問題解決にあたった。問題解決のポイントは医師たちに消毒の必要性を理解・協力してもらうことであった。当院では、感染対策委員のDrが耳鼻科のDrに感染の重要性を話し納得してもらう事が出来た。まだ結果は出ていないが、今後は内視鏡の本数を揃え、中央材料室で、洗浄・消毒していく予定である。